

佳作

音楽が持つ力を信じて

新潟県柏崎市立鏡が沖中学校

3年 福原 杏

「音楽が人の心を動かす」ということはよく聞かれる話だ。実際にそういう体験をしたことのある人は多いのではないか。例えば音楽を聴いて懐かしんだり、気持ちが慰められたりすることもそれに含まれると思うし仲間と目標に向かって一緒に音楽を創る時の苦悩や、達成した時の感動も心を揺さぶられる体験だ。また、著名な作曲家が遺した曲の中にも、家族や恋人に向けたもの、亡き故郷への想いを綴ったもの、革命時代の激動の中で創られたものなど、音楽は人の感情を表すことができるからこそ、受け取る側の心を動かすのかもしれない。

戦後 80 年の今年、今まで以上に戦争の話題を見聞きする機会が多いように感じる。その中で、アメリカ出身の世界的指揮者、作曲家でピアニストのレナード・バーンスタインの「既に言葉は多すぎる。行動が不足している。」と訳された言葉が目にとまった。これは原爆投下から 40 年にあたる 1985 年、広島で開催された「広島平和コンサート」に出演するために来日した彼が、この前日、原爆資料館を訪れた際に芳名録に記したという言葉だ。このメッセージは、戦争や核兵器のない世界に向け、もっと行動を起こすべきであると解釈される。彼は音楽界で世界的な影響力がありながら、当時の大統領や国連大使に反核を直訴するなど、核兵器廃絶、反戦運動に注力した人物だ。

つまり彼の行動から、このメッセージは、行動を起こすべき責任を唯一の被爆国である日本に任せたものでもなく、行動が不足しているというメッセージは日本だけに向けたものではないと考える。

事実、彼は反戦の思いを込めて曲を書いたり、自らのコンサートでは社会情勢を顧みず反戦を訴える曲を選曲し指揮を振ったりなど、音楽を通して平和に貢献すること、平和と国際相互理解を希求するという揺るぎない信念を持って音楽活動を行っている。そしてその活動は多くの音楽家に支持され、彼の音楽は、時代や背景、国籍を超え多くの聴衆を魅了している。私は彼のメッセージと活動こそ、音楽の持つ力で人の心に働きかけるものであると感銘を受けた。同時に、音楽は言葉以外の方法で人の心を動かすことのできる手段であると改めて感じる。

このことを考えた時、私は「被爆ピアノコンサート」で演奏した経験を思い出した。被爆ピアノとは、原爆投下の爆心地から半径数キロメートルの距離で

被爆しながら、奇跡的にその形だけをとどめていたピアノだ。遺族から託されたそのピアノを、調律師の矢川光則さんが、できる限り当時のままの状態を保ちつつ修復した。この奇跡のピアノは、核なき平和な世界の実現を目指し、国内外で演奏されている。矢川さんの考えや行動に多くの人が賛同したことで、広がっているこの活動もまた、音楽を通し人の心へ訴えかけ、心を結ぶものである。コンサートで初めて目にした被爆ピアノは無数の深く大きな傷が残り、恐ろしく悲しい姿だった。しかし音色は切なくなるほど優しく、響きも傷ついた鍵盤からさえも温かみを感じた。このピアノに触れ、姿と音色を直接感じたことで、戦争、原爆について無知だった私にも、矢川さんや高校生平和大使の話が鮮烈に心に残った。

人の手によって無惨に破壊された人々の生活や人生、その瞬間そこにあったピアノ。歳月を経ても、このピアノに起きた悲劇の記憶が和らぐことはない。しかし、歳月を経て今も聴こえるこのピアノの音色は、言葉が持つ力を超えて、聴く人の心に響き、共感や平和の輪を広げることができると思う体験だった。

私は、将来ピアニストになりたい。演奏技術だけでなく、音楽を広く、深く学び、音楽が持つ力をもっと知りたい。演奏家として、音楽を通して自分や誰かの心を支えるような感情を届けられたり、心を揺さぶられるような感動を共有できたら幸せだと思うし、それがどこかで社会と繋がる活動となったら素晴らしい。これが私の目指す道である。

音楽史を振り返れば、どんな時代にも人のそばには心情や祈りを込めた作品がある。それは、人々の願いとともに音楽があり、音楽が人の気持ちを動かし、行動の糧となってきたからだと思う。また、固有の文化を持つ民族にも古くから受け継がれた音楽やリズムがあることや、文化や風習が異なる多様な社会においても、創られた時代やジャンルを超えて音楽が求められ、その響きや言語を超えたメッセージが広く人々の心に受け入れられていることから、音楽は人々が共に生きていくために必要なものだと思う。

音楽は、言葉を重ねるだけでは伝えきれない思いや感情を共有する力を持っていることを信じ、夢への挑戦を諦めない。